

「妊娠・分娩と更年期障害」

麻 生 武 志 三 橋 直 樹

I) 基本理念・視点・背景

a. 現代の母子保健

現代の女性の社会的地位の向上は、彼女らを家庭から職場へ進出させる大きな要因となり、必然的に核家族化、妊娠・分娩の高齢化が進み、都市集中型思考と生活環境や住宅事情の変化により、今までなかった新しい夫婦関係や家族関係が形成されつつある。こうした中で現在の妊産婦をとりまく諸因子を考えてみると、少産少子に象徴される特異な母子環境が生じており、このような社会的変遷には、結婚・妊娠・出産・育児に対する付加価値の変遷、栄養の摂取やエネルギーの消費といった固体維持に関する実行環境の変化などさまざまな要因が含まれる。出産や育児への不安、妊産婦の精神衛生とそれを取り巻く環境の変化により、複雑化した現代社会に生活する婦人には、今まで考えられなかったようなストレスにさらされる可能性が考えられる。

b. 更年期障害について

人口の老齢化に伴い、産婦人科領域においても高齢化社会に向けての予防医学に対する関心が高まっている。急速に老齢化社会に変貌しつつある状況下において、女性にとって老年期への関門ともいえる更年期の、健康管理は重要な課題となっている。閉経（日本人は51歳くらい）の前後、数年間に卵巣からのエストロゲンの急減期に更年期障害や萎縮性膣炎などの症状が現れる。これらの症状への対応が更年期障害への治療の中心として考えられている。また骨粗鬆症や動脈硬化症の発症

は60歳代以降でも、潜在的発症（いわゆる病変の始まり）は、エストロゲンの低下とほぼ時を同じくしていることが判明している。

更年期に発現する更年期障害としては、1) Hot flushes 顔面紅潮、2) 多汗、3) 情緒不安定、4) 肩こり・背部痛、5) 手足しびれ感、6) 不眠、7) 関節痛、8) うつ病様症状、などが挙げられる。その他広義の更年期障害の症状としては、ゆううつ、いらいら、倦たい感、脱力感、無気力、頭痛、もの忘れ、手足の冷え、動悸、めまい、胸部圧迫感、食欲不振、立ちくらみ、頻尿、などである。このうちエストロゲンの欠乏に起因する症状は、腰痛（骨粗鬆症による）、性交痛、冷感症（性器萎縮による）、不眠、手足のしびれ感、関節痛などが挙げられる。

c. 妊娠・分娩と更年期障害の関連性

婦人でもっとも早期に現れる老化の表徴は、生殖能の衰退である。生殖能の衰退を目安にすれば、早期の老化段階で更年期の開始点を捉えることが可能かもしれない。卵巣からのエストロゲン分泌の低下が更年期障害発症の引き金と考えれば、自然な生殖能の衰退がいつ起こるかを、妊娠・出産・授乳・育児とそれを取り巻く環境因子の関連性をもって調査することは、大きな意義があると思われる。また、更年期障害発症の因子として、単にエストロゲンの欠乏という病因だけに限らず、生殖年齢から更年期・閉経期に至るまでの生活環境における精神状況やストレスとの関係も考えれば、妊娠・出産・授乳・育児のもたらす影響はより大きいものと考えられる。

II) 研究目的

妊娠・分娩・授乳・育児が、妊産褥婦の身体に及ぼす直接的・一時的・短期的変化と、これを契機に生ずる新たな家族関係や生活環境によって心身に及ぼす、間接的・遅発性の変化が、中高年婦人に好発する更年期障害の発現やその体様にいかに関係するかを検討する。つまり、妊娠・出産をめぐる出来事と更年期障害との関係を調べる。

III) 研究方法

これまでの研究に関する情報の収集と更年期障害を訴えている女性を対象とした横断調査を実施する。

a. アンケート調査票について

1) 更年期障害の程度をいかに診断するか

更年期障害の重症度の評価や治療効果の判定のための確立した他覚的判定法がなく、もっぱら自覚的判定法によって治療がなされているのが現状である。本研究では、より客観的な不定愁訴の評価を可能とする目的で、更年期指数(簡易更年期指数)調査票をアンケートに組み込み、更年期障害の病態度と重症度をチェックする。

2) 簡易更年期指数(SMI)

簡易更年期指数は、更年期障害における症状の把握のため他の更年期指数と同様スコア化しながら、ある程度日本人向けに修正し、かつ外来の診療に適用できるよう、可能な限り簡略化した点に特色がある。Kupperman指数に比べ、エストロゲン分泌に影響を受けやすい血管運動神経系症状に重点を置いた配点になっており、閉経期前後、またはホルモン補充療法による効果判定などを観察するのは便利と思われる。簡易更年期指数に要する時間は数分であり、分かり易いように最も症状のひどい場合を100点とした。一般に更年期障害を訴えて来院する患者は50~80点くらいの間が多く、対応が適切であれば2~3週間の治療で50%くらいの減点が認められる(表1)。更年期障害を訴える対象者については、結合型エストロゲン製剤(プレマリン0.625mg/日)

を初期治療薬として約2カ月間投与し(ホルモン補充療法)、投与前・投与後の簡易更年期指数を算定する予定である。

3) アンケートの対象

本年度はまず、更年期障害を訴えてきた者を対象とし、対象者全員を簡易更年期指数の高い群と低い群に分類して調査する。また、エストロゲン欠乏が主因の更年期障害患者をpick upする意味で、ホルモン補充療法が効果的であった群に注目したい。次年度からは年齢を限定して行なったり、異常妊婦や異常分娩を経験した対象者における更年期障害発現の頻度についても検討したい。

この調査は、東京大学医学部付属病院および東京医科歯科大学医学部付属病院の産婦人科を訪れた外来患者をまず対象とし、そのデータ処理が終了次第、各関連病院や東京以外の他施設にも調査を拡大したい。

4) 妊婦・分娩・授乳・育児と更年期障害に関する調査票

まず、生年月日、身長・体重、月経歴、既往歴、服用薬剤の有無、結婚・離婚歴、家族構成、学歴と職業歴を調査する。妊娠・分娩・産褥・授乳・育児については、このアンケート調査での最重要事項なので、表2、表3に示すように詳細なものとした。妊娠中や分娩における異常の有無、授乳方法、月経再開と育児に関し、それを取り巻く環境も含め、全ての妊娠・分娩について詳しくアンケートをとる。

今から振り返って、妊娠・分娩・育児はどのようなであったかという質問を加え、妊娠・出産に対する印象、その当時の夫や家族の環境、授乳・育児への考え方についてもチェックし、分娩を契機に現在に至る生活環境における精神面での影響を調査する。さらに、分娩・授乳・育児・子育てを経た現在の心境を尋ね、出産や育児に関するイメージも検討したい。最後に、現在の夫婦関係・子供との関係・今の生活に対する不満の有無など、現在の生活に関する満足度の評価を行ない、更年期障害との関連性について調査する。

5) 調査データの情報処理について

アンケート調査によって得られたデータを統計処理し、更年期障害と妊娠・分娩の関連性につき探究する。情報処理に関しては、東京医科歯科大学難治疾患研究所の田中平三教授を顧問としてお願いしている。

IV) 今後の研究の展望

本年度の研究目標は、「妊娠・分娩と更年期障害の関係を調べるアンケート調査」の作成とそのデータ処理システムやデータ解析チームの確立であり、この目標はほぼ達成されている。更年期障害の背景に関する文献は、夫

婦の関係、子供とのつながりの深さ、仕事上でのストレス、婦人の持つ社会的ネットワークなどに関するものはあったが、妊娠・分娩との関係を論じたものはない。また、閉経年齢と初経年齢・妊娠回数・出産回数・月経の規則性との間に明かな相関を認めないとする報告はみられるが、閉経年齢と更年期障害とはかなり意味合いが異なると思われる。

今後この研究を進めることは、現代の女性の健康管理を考える上で、新たな重要な問題の決意を意味し、高齢化社会・中高年婦人の健康管理とquality of lifeの保持を考えるうえでも意義あることと考えられる。

表1 簡略更年期指数 (SMI)

	症状の程度 (点数)				点数
	強	中	弱	無	
①顔がほてる	10	6	3	0	
②汗をかきやすい	10	6	3	0	
③腰や手足が冷えやすい	14	9	5	0	
④息切れ、動悸がする	12	8	4	0	
⑤寝つきが悪い、または眠りが浅い	12	9	5	0	
⑥怒りやすく、すぐイライラする	12	8	4	0	
⑦くよくよしたり、憂うつになることがある	7	5	3	0	
⑧頭痛、めまい、吐き気がよくある	7	5	3	0	
⑨疲れやすい	7	4	2	0	
⑩肩こり、腰痛、手足の痛みがある	7	5	3	0	
合計点					

症状群	血管運動 神経系症状	精神・神経 系症状	運動・神経 系症状
割合 (%)	46	40	14

簡略更年期指数の評価法

- 0～25点 =問題なし
- 26～50点 =食事・運動に気をつけ、無理をしないように
- 51～65点 =更年期・閉経外来で生活指導カウンセリング、薬物療法を受けたほうがよい
- 66～80点 =長期(半年以上)の治療が必要
- 81～100点 =各科の精密検査を受け、更年期障害のみである場合は、更年期・閉経外来で長期の治療が必要

表2 8・7ヶ月以上の子どもを出産したことのある方は以下の設問にお答えください
(7ヶ月未満の流産、中絶または死産は含めなくて結構です)

	第1子	第2子	第3子
	歳	歳	歳
★出産した時の年齢			
★つわりはありましたか？	1.非常に強かった 2.強かった 3.軽かった 4.ほとんど無かった	1.非常に強かった 2.強かった 3.軽かった 4.ほとんど無かった	1.非常に強かった 2.強かった 3.軽かった 4.ほとんど無かった
★切迫早産を経験しましたか？	1.入院した 2.薬を飲んだ 3.自宅安静をしていた 4.無かった	1.入院した 2.薬を飲んだ 3.自宅安静をしていた 4.無かった	1.入院した 2.薬を飲んだ 3.自宅安静をしていた 4.無かった
★妊娠中毒症(むくみ・蛋白尿・高血圧)がありましたか？	1.入院した 2.薬を飲んだ 3.自宅安静をしていた 4.無かった	1.入院した 2.薬を飲んだ 3.自宅安静をしていた 4.無かった	1.入院した 2.薬を飲んだ 3.自宅安静をしていた 4.無かった
★その他の異常がありましたか？	1.前置胎盤 2.胎盤早期剥離 3.その他 () 4.無かった	1.前置胎盤 2.胎盤早期剥離 3.その他 () 4.無かった	1.前置胎盤 2.胎盤早期剥離 3.その他 () 4.無かった
★妊娠中に合併症がありましたか？	1.心臓病 2.糖尿病 3.血液の病気 4.その他 () 5.無かった	1.心臓病 2.糖尿病 3.血液の病気 4.その他 () 5.無かった	1.心臓病 2.糖尿病 3.血液の病気 4.その他 () 5.無かった
★出産時期	1.早産 ¹⁾ 2.満期産 ²⁾	1.早産 2.満期産	1.早産 2.満期産
★出産様式	1.正常産 2.鉗子分娩 3.吸引分娩 4.帝王切開 2～4の場合は理由がわかれば書いてください ()	1.正常産 2.鉗子分娩 3.吸引分娩 4.帝王切開 2～4の場合は理由がわかれば書いてください ()	1.正常産 2.鉗子分娩 3.吸引分娩 4.帝王切開 2～4の場合は理由がわかれば書いてください ()
★子どもの数	1.ひとり 2.ふたご 3.三つ子以上	1.ひとり 2.ふたご 3.三つ子以上	1.ひとり 2.ふたご 3.三つ子以上
★子どもの状態	①体重 ②生まれた時の仮死 ③奇形 ④その他の異常	1.未熟児 ³⁾ 2.正常児 ⁴⁾ 1.あり 2.なし 1.あり () 2.なし 1.あり () 2.なし	1.未熟児 2.正常児 1.あり 2.なし 1.あり () 2.なし 1.あり () 2.なし

注：1) 出産予定日より2週間以前に出産
2) 出産予定日より2週間以内に出産
3) 体重が^s 2,500g以下
4) 体重が^s 2,500g以上

表3

	第 1 子	第 2 子	第 3 子
★出産後に出血などの異常がありましたか？	1.あり () 2.なし	1.あり () 2.なし	1.あり () 2.なし
★出産後の体の回復はどうでしたか？	1.良かった 2.あまり良くなかった 3.悪かった	1.良かった 2.あまり良くなかった 3.悪かった	1.良かった 2.あまり良くなかった 3.悪かった
★出産前後で体重はどのくらい増加または減少しましたか？	(+, - kg)	(+, - kg)	(+, - kg)
★授乳の種類は？	1.ほとんど母乳 2.ほとんどミルク 3.混合	1.ほとんど母乳 2.ほとんどミルク 3.混合	1.ほとんど母乳 2.ほとんどミルク 3.混合
★母乳をあげていた期間は何ヶ月ですか？	_____ヶ月	_____ヶ月	_____ヶ月
★出産後、月経が再開したのはいつ頃ですか？	出産後 _____ヶ月頃	出産後 _____ヶ月頃	出産後 _____ヶ月頃
★出産後に背中や腰の痛みがありましたか？	1.あり 2.なし	1.あり 2.なし	1.あり 2.なし
★妊娠・出産・授乳期を通して栄養には気を付けていましたか？	1.気をつけていた 2.あまり 気にしなかった 3.全く気にしなかった	1.気をつけていた 2.あまり 気にしなかった 3.全く気にしなかった	1.気をつけていた 2.あまり 気にしなかった 3.全く気にしなかった
★出産した時に親と同居していましたか？	1.自分の親と同居 2.夫の親と同居 3.核家族だった	1.自分の親と同居 2.夫の親と同居 3.核家族だった	1.自分の親と同居 2.夫の親と同居 3.核家族だった
★出産前後も仕事をしましたか？ ①妊娠中 ②出産後	1.仕事をしていた 2.していなかった 1.仕事をしていた 2.していなかった	1.仕事をしていた 2.していなかった 1.仕事をしていた 2.していなかった	1.仕事をしていた 2.していなかった 1.仕事をしていた 2.していなかった
★就業中の子供の世話は誰に任せていましたか？ (仕事をしていた方のみで結構です)	1.自分の親 2.夫の親 3.保育園 4.ベビーシッター 5.その他 ()	1.自分の親 2.夫の親 3.保育園 4.ベビーシッター 5.その他 ()	1.自分の親 2.夫の親 3.保育園 4.ベビーシッター 5.その他 ()
★子供の育児のことで周囲の協力は得られましたか？	1.十分得られた 2.あまり 得られなかった 3.全く得られず 大変だった	1.十分得られた 2.あまり 得られなかった 3.全く得られず 大変だった	1.十分得られた 2.あまり 得られなかった 3.全く得られず 大変だった



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



)研究目的

妊娠・分娩・授乳・育児が、妊産褥婦の身体に及ぼす直接的・一時的・短期的変化と、これを契機に生ずる新たな家族関係や生活環境によって心身に及ぼす、間接的・遅発性の変化が、中高年婦人に好発する更年期障害の発現やその体様にいかに関係するかを検討する。つまり、妊娠・出産をめぐる出来事と更年期障害との関係を調べる。